

森林の調査隊！！フォトコンテスト入選作品決定 ～最終審査会（公開）の結果概要～

箕面森林ふれあい推進センターでは、下記のとおり「平成25年度森林の調査隊！！フォトコンテスト」の最終審査会を開催しました。このコンテストは、森林や里山に暮らす動植物や森林づくり活動、森林環境教育活動などの撮影を通じて、森林や里山の現状や役割を多くの人に伝えることを目的とし実施しています。

今年は、「身近な森林・里山の動植物や森林と人との関わり」をテーマに写真3枚1組を1作品として募集したところ、学校、森林・林業活動グループ、企業・家族など全国から60作品の応募があり、この中から一次審査を通過した30作品が最終審査に進みました。

最終審査では、一次審査を通過した応募者が日頃の活動や作品の説明をスピーチし、単に映像の美しさにとどまらず、作品に込められたメッセージ性も審査し、只木良也（京都府立林業大学学校校長）、青山佳世（フリーアナウンサー）、久山慶子（フィールドソサイエティ事務局長）、久留飛克明（箕面公園昆虫館長）の4氏と前川局長も審査に加わり、林野庁長官賞1点、里山賞1点、審査員特別賞1点、近畿中国森林管理局長賞7点の計10点の入選作品を決定しました。

記

- 1 日 時：平成25年12月1日(日) 12：30～16：00
- 2 場 所：京都市東山区 清水寺 「経堂」
- 3 審査会入場者：約110名
(その他、清水寺参拝者の多数が、会場前の展示作品を見学)
- 4 審査員
只木良也氏（農学博士、京都府立林業大学学校校長）
青山佳世氏（フリーアナウンサー）
久山慶子（フィールドソサイエティ事務局長）
久留飛克明（箕面公園昆虫館長）
- 5 審査結果（別添のとおり）

平成25年度入選作品一覧

◎最優秀賞(林野庁長官賞)

- ◆「豊かな自然の生き物たち」 山下 泉マリー (滋賀県大津市)

◎里山賞

- ◆ミッション！SATOYAMAパート2 須賀 修平・中川 卓・水野 弥生
「里山は心の中にあるんだよ」 (大阪府大阪市)

◎審査員特別賞

- ◆「森の笑（わら）かし屋さん」 河合 智佳子 (愛知県豊田市)

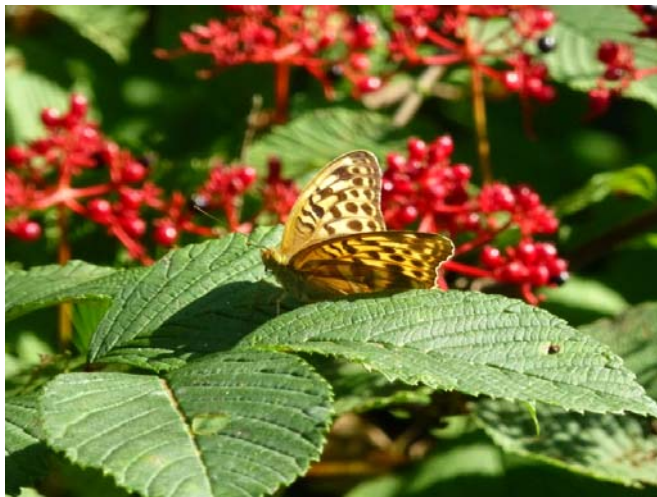
◎優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)

- ◆「青春時代の1ページ
(O・M o・I・D e)」 野島 丈裕 (大阪府大阪市)
- ◆「森とゆかいな仲間たち」 前田 純二・大谷 純 (大阪府大阪市)
- ◆「春が来た！！」 難波 広樹 (広島県庄原市)
- ◆「守るべきいのち」 服部 美沙 (広島県庄原市)
- ◆「森林（もり）は大きな図書館」 湯川 喜義 (長野県木曽郡)
- ◆「背中に目をつけている虫、他」 藤井 寧々 (大阪府豊能郡)
- ◆「めぐる命」 伊東 里紗 (京都府京都市)

(左からタイトル名、氏名、住所)

◎ 林野庁長官賞（最優秀賞）
「豊かな自然の生き物たち」

山下 泉マリー
（滋賀県大津市）



メッセージ

私は、よく家族で森にハイキングに行きます。その時に、私は誕生日に買ってもらったカメラをいつも持って行き、おもしろい生き物やきれいな風景を見つけると、写真を撮るたくさん撮ります。今回応募した作品のうちの二つは、家族旅行の時に撮ったものです。

カエルの写真は富山県の合掌造りの集落周辺の池で撮りました。そこは辺り一面カエルの鳴き声でいっぱい、その鳴き声もカメラにおさめたいと思ったので、カエルが頬をふくらました瞬間をじーっと待って、やっと撮ることができました。

オレンジのチョウの写真は、長野県の戸隠神社の近くで撮りました。そのチョウは私が写真を撮ろうとすると、すぐ逃げってしまうので、気づかれないようにそーっと撮らないといけませんでした。戸隠へは夏休みにキャンプに行ったのですが、とても暑かった滋賀県から来た私たちにとって、長野県はとても涼しくて、朝晩は寒いくらいでした。このチョウは滋賀県でも何回か見たことがあったと思いますが、長野県で見ると空気がすがすがしいので、色が鮮やかに見えました。

最後に二匹のアゲハチョウの写真は、自宅の庭で撮ったものです。チョウが交尾している姿は、テレビや図鑑でしか見たことがなかったので、あわててカメラを持ってきて撮りました。

森へ行くと、いろいろなおもしろい発見があって、とても楽しいです。これからもたくさんの生き物が住めるように、森を大切にしていきたいです。

◎里山賞

ミッション！ SATOYAMAパート2「里山は心の中にあるんだよ」

須賀 修平・中川 卓・水野 弥生
(大阪府大阪市)



秋も深まりつつある日のこと、当社にもやって来ました里山旋風！日頃から森林を愛する社長の一声は、もう立派な“お仕事？”去年に引き続いてミッション里山のキックオフです。大阪の中心にある私達の会社。さあ、少一し足を延ばしてみましょう。

①足を延ばしたその先は、会社から1時間ほどの所にある大阪府と奈良県の境目、『金剛山』です。写真は展望台付近で見つけた、野鳥の巣箱。設置したのは地元の観察会の方々とのことです。巣箱の住人はどんな鳥なのでしょう？

きっと、おいしそうに秋の実りをついばんでいるのしょうね。展望台からの景色は鮮やかな緑が目に入ります。『麓はどうなっているんだろうか？』・・・調査隊の鼓動は高まります。

②緑の正体は『大阪府千早赤阪村』の田園風景。緩やかな坂道を登るとスケッチブックを持った近くにお住まいの『おかあさん』に出会いました。四季折々の表情を見せるこの棚田に思いを込めて描いてらっしゃるとの事。暖かく、優しい後ろ姿です。

③眼下に広がるのは日本の棚田百選にも選定されている『下赤坂の棚田』です。コスモスや“はさかけ”された稲穂が一枚の絵の様に広がります。気持ちのよい風が吹き、調査隊はいつまでも眺めていたい思いにふけりました。

いつもいる場所から、そう遠くない所にも“里山”はありました。

社長！『心の中に』とはそういうことですね！里山に住む人々の生活や保全する人々の息遣いを感じられたような、そんな、今回のミッションでした。

◎審査員特別賞

「森の笑（わら）かし屋さん」

河合 智佳子
(愛知県豊田市)



おや？木に何かいたのでしょうか？皆のぞきこんでいます。ありふれた何のヘンテツもない木だと思っても、実はユニークな「森の笑かし屋さん」がたくさんかくれています。

どの木にも模様、傷、こぶなどがありますが、まったく同じ木なんて一つもない。こんな風に視点を変えて木を“観”てみると、「ただの木」が「おもしろい木」へと大変身！撮影した場所はトヨタの森という、小学生の自然体験学習を主に行っているところです。写真に写っている方々は「21世紀の里山文化体験コース」という大人向けのイベントの参加者で、テーマは「はじめよう、森が身近にあるくらし」でした。

そこで私たちが普段小学生にやっているように、参加者に森の笑かし屋さんを探してもらったところ、見つけた瞬間、思わずクスッと笑顔がこぼれました。私は、この瞬間の顔がすごく好きです。

この時私は、自分で笑かし屋さんを見つけたときの笑顔は子どもも大人も変わらないんだなと気づきました。これが木や森のチカラなのではないでしょうか。

森林浴をするとフィトンチッドによってストレスホルモンが減少……なあって難しいことを知らなくても、木ひとつ！自由な想像力ひとつ！だけで、誰もが笑顔になって癒やされる。そんな自然とのふれあいのほうが、より身近に親しみやすく感じませんか。

“笑かし屋さん”の住む木があなたのすぐ近くにあるかもしれませんよ。

さあ、探しに行ってみよう！

◎近畿中国森林管理局長賞（優秀賞）

「青春時代の1ページ

（O・M o・I・D e）」

野島 丈裕 （大阪府大阪市）



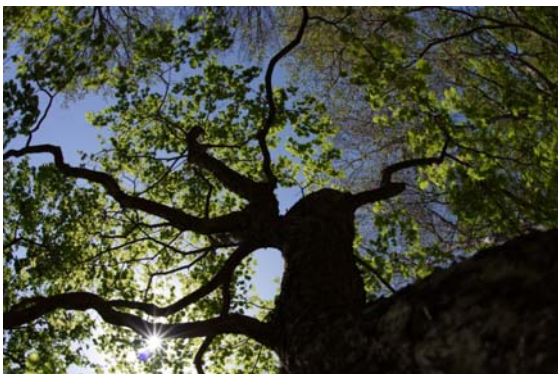
「森とゆかいな仲間たち」

前田 純二・大谷 純（大阪府大阪市）



◎ 近畿中国森林管理局長賞（優秀賞）

「春が来た！！」
難波 広樹（広島県庄原市）



「守るべきいのち」
服部 美沙（広島県庄原市）



◎ 近畿中国森林管理局長賞（優秀賞）

「森林（もり）は大きな図書館」
湯川 喜義（長野県木曽郡）



「背中に目をつけている虫、他」
藤井 寧々（大阪府豊能郡）



◎ 近畿中国森林管理局長賞（優秀賞）

「めぐる命」

伊東 里紗（京都府京都市）

